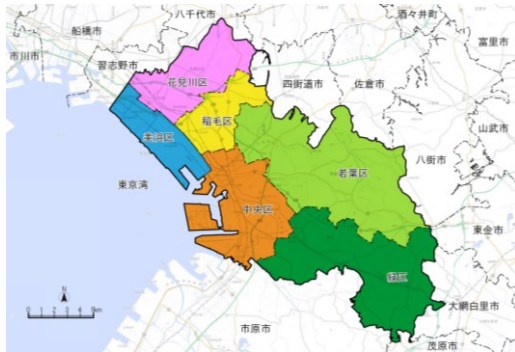
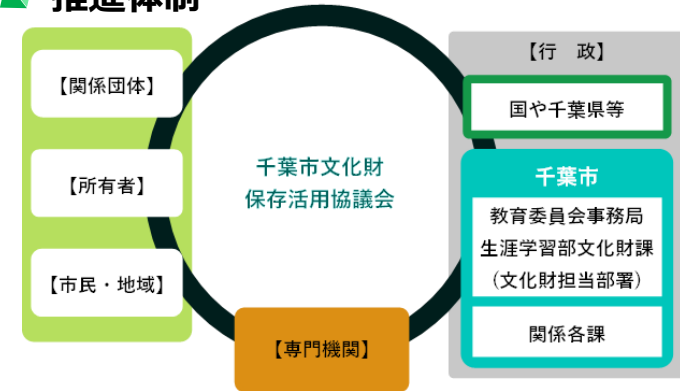


千葉市文化財保存活用地域計画 概要

【計画期間】 令和8～14年度（7年間）
 【面積】 271.78km²
 【人口】 約98.8万人



推進体制



指定等文化財件数一覧

類型	種別	国指定・選定	国選択	県指定	市指定	国登録	県登録	市登録※1	合計
有形文化財	建造物	0	—	3	6	8	0	1	18
	美術工芸品								
	絵画	1	—	7	0	0	0	0	8
	彫刻	1	—	3	16	0	0	0	20
	工芸品	3	—	4	3	0	0	0	10
	書跡・典籍	0	—	2	0	0	0	0	2
	古文書	0	—	1	2	0	0	2	5
	考古資料	0	—	2	8	0	0	0	10
	歴史資料	0	—	0	1	0	0	1	2
無形文化財		0	0	2	0	0	0	0	2
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	—	0	1	1	0	0	2
	無形の民俗文化財	0	1	2	1	0	0	4	8
記念物	遺跡	5※2	—	6	12	0	0	2	25
	名勝地	0	—	0	1	0	0	0	1
	動物、植物、地質鉱物	4※3	—	3	0	0	0	0	7
文化的景観		0	—	—	—	—	—	—	0
伝統的建造物群		0	—	—	—	—	—	—	0
合計		14※2・3	1	35	51	9	0	10	120

歴史文化の特徴

①東京湾と下総台地がもたらした豊かな自然資源

東京湾の海産資源と下総台地の陸産資源という2つの豊かな自然は、各時代の文化形成の根幹をなし、加曽利貝塚や古墳、千葉氏による中世のまちなどが形成されました。近・現代においても、自然地形を活かした飛行場やリゾート地の歴史を伝える資料や景観、谷津田の田園風景が残り、自然景観が広く親しまれています。



大草の谷津田景観

②房総と鎌倉・江戸・東京を結ぶ中継地

海と陸の利便性を活かし、古代から海上・陸上交通の要衝として発展してきました。東京湾の対岸の鎌倉・江戸へ行き来する海上交通の拠点となり、明治以降の鉄道網の整備で政治・経済・文化の面から、房総半島における中心地としての地位を確立しました。



御成街道

③海と陸の文化を取り入れ育んだ生活と信仰

海と陸の豊かな自然資源に根ざした東京湾沿岸部の漁業や内陸部の農業が発展し、それらは海の神を祀る祭りや山岳信仰などの民俗文化を育んできました。都市化が進む現代においても、自然との関わりの中で育まれた生活や文化は、千葉市の歴史文化を物語る重要な要素として受け継がれています。



大舟の飾り幕

指定等文化財は、120件

未指定文化財は、4,976件把握

※1 千葉市地域文化財

※2 うち1件は特別史跡

※3 うち1件は特別天然記念物

地域に残る文化財を、地域が一体となって守り伝え、文化財を活かした魅力溢れるまちづくりを行うことを基本理念とします

文化財の保存・活用に関する課題・方針・取組み

【課題】

【方針】

【取組みの例】

【新】：新規事業

【重】：重点的に取り組む事業

文化財の価値・魅力を「知る」	把握調査、現況確認調査における課題 文化財の現況確認が不十分又は情報更新ができていない 等 調査・研究、指定・登録における課題 都市アイデンティティに関する文化財の調査・研究と公開が不十分 等 公開・展示における課題 身近に文化財に触れる機会が少ない 等 情報発信における課題 文化財への興味関心を持ってもらうための方法の検討が不十分 等	①文化財の把握調査、現況確認調査の推進 ②文化財の価値や魅力を明らかにするための調査・研究と成果の公開 ③文化財を知る機会・場所の創出 ④文化財情報の効果的な発信	【重】 3 都市アイデンティティ関連遺跡の発掘調査の実施 加曽利貝塚や千葉氏関連遺跡等の都市アイデンティティに関連する重要な遺跡について、大学等の専門機関と連携した発掘調査等を実施し、価値や魅力を学術的に裏付ける。 ■取組主体：行政,専門機関,関係団体,所有者 ■R8~14 【新】 14 大学等機関との連携による若年層への訴求力の向上 文化財に興味関心の薄い若年層を対象に、文化財の価値や魅力を探し活用方法を検討するワークショップを、大学等機関と連携して実施する。市はこの成果を活用し、若年層に訴求する文化財の価値や魅力を発信する方法を検討する。 ■取組主体：行政,専門機関,所有者,市民・地域 ■R8~11
みんなで文化財を「活かす」	体制整備における課題 文化財を管理・活用するためのデータベースが未整備 等 連携における課題 活動する市民や関係団体同士の連携が不十分 等 活用（まちづくり）における課題 観光やまちづくり事業と連携した文化財の活用が不十分 等 活用（教育）における課題 教科書による授業だけでは、郷土の歴史や文化財への理解が不十分 等	⑤保存・活用を推進するための体制整備 ⑥多様な主体との連携促進 ⑦市民や関係団体の活動の確認と相互連携 ⑧文化財の価値や魅力を伝える多角的な活用 ⑨学校教育における文化財の活用の促進	【新】 25 関係団体の活動調査 文化財を保存・活用する地域の担い手と連携するため、公民館等で活動する関係団体やその活動を確認する。 ■取組主体：行政,関係団体,市民・地域 ■R8~11 【新】 30 文化財の価値や魅力を活かしたユニークベニューの検討 MICE主催者へのニーズ調査等、建造物や史跡等のユニークベニューとしての活用を、観光担当課と連携して検討・調整を行う。 ■取組主体：行政,関係団体,所有者,市民・地域 ■R12~14
文化財を先の世代まで「守る」	保存・管理における課題 埋蔵文化財保護制度の周知が不十分 文化財の収蔵スペースが不足 等 防災・防犯における課題 個々の文化財の防災・防犯状況を確認できていない 等 継承支援における課題 存続が危ぶまれる郷土芸能があり、支援が必要 等	⑩文化財の適切な保存・管理 ⑪文化財収蔵施設の適切な管理 ⑫文化財の防災・防犯の推進 ⑬継承支援策の強化	【新】 48 災害時等の連絡体制や防災・防犯マニュアルの整備 災害時や盗難被害等発生時の連絡体制や防災・防犯マニュアルを整備し、所有者・管理者に配布する。 ■取組主体：行政,専門機関,関係団体,所有者 ■R12~14



文化財ワークショップ



地域住民による古文書の虫干し